

2013年4月

ENGLISH



日本神経回路学会

Japanese Neural Network Society

[TOP](#)[新着情報](#)[学会](#)[論文](#)[イベント](#)[外部リンク](#)[お問い合わせ](#)[受賞者リスト](#)[各種助成](#)[賛助会員の皆様](#)[会員用ページ](#)

会長挨拶

モノを記述し解き明かす物理学。コトの関連と原理を見出す数理学。それらに支えられて生命現象の知見を蓄積する生理学。知見と考え方をヒトの心や意識につなげようとする心理学。神経回路学は、このようなさまざまな分野と視点を総合する学問です。そして同時に、工学的応用を目指すものでもあります。

現在、国内外には課題が山積しています。それはチャンスです。たとえば高齢化が進んでいます。日本はその先頭を走り、世界の国々、特にアジアの各国はそれぞれの多様性を背景に持ちながら日本以上のスピードでこれを追いかけています。プラチナ社会、超成熟社会といった言葉も生まれています。人間に関する計測技術が発達し、膨大なデータ、いわゆるビッグデータが日々、蓄積されています。現代医療は、生活様式や個人差を本格的に考慮できる時代になってきました。脳を含む体の健康、心の健全、人間社会の調和のために、神経回路学が活躍できる分野はたくさんあります。

災害も同様です。GPS(global positioning system)で蓄積された人間の位置データを解析することにより、東日本大震災における人々の行動が抽出されその心理も考察されています。人工衛星からは、地形変動の様子をグローバルかつ時空間的に高密度に計測することが可能になりつつあります。地震源が連なっているアジア・環太平洋地区でのデータ蓄積と研究協力はますます重要です。都市化と森林破壊、農作物の生育状況なども面白い対象でしょう。これら場面でも、神経回路学的なもの見方と考え方が役立つ状況がたくさんあります。

本学会は、世界の中での、特にアジア太平洋地区での日本という視点も持ちながら、多様性を強みにかえる国際化を推進したいと考えます。そして、世界から尊敬される学会、そのメンバーとして会員が楽しく研究を進められる学会を目指します。さあ、世界の課題の山が呼んでいます、元気に挑戦してゆきましょう。

2013年4月 会長 廣瀬 明